

第3回タクシー及び日本版ライドシェアにおける 運賃・料金の多様化に関する検討会（概要）

○河野委員（（一財）日本消費者協会 理事）

- ・利用者が負担する追加コストをダイナミックプライシングで確保する必要があるのか。
- ・消費者側に適切に情報が提供され、消費者が選択できることが大切。
- ・ダイナミックプライシングではなく外部コストの価格転嫁の問題ではないか。
- ・迎車料金・夜間料金をしっかりと徴収することから始めるべきではないか。

○加藤委員（東京大学大学院工学系研究科教授）

- ・需要に応じて時間帯で変わる運賃とリアルタイムの需要で変わる運賃両方にダイナミックプライシングという用語が使われているので用語の整理をすべき。
- ・他の交通への影響を考慮すべき。地域や自治体もタクシーのみでの最適化を考えているわけではない。

○小幡委員（日本大学大学院法務研究科教授）

- ・アプリの配車料金の仕組みによってはドライバーの働き方に影響がある。
- ・無駄を省く新たな取組みにより運賃を安くした方が消費者にとっては良い。

○溝上委員（全国自動車交通労働組合連合会中央執行委員長）

- ・迎車料金を取っていない多くの地方の地域では「先行的な事例」の制度は当てはまらない。
- ・新たな運賃制度の場合、利用者に周知しないとトラブルとなり、ドライバーの負担となる。

○森川委員（東京大学大学院工学系研究科教授）

- ・パターン2は事業者の創意工夫を取り入れることが可能なので好ましい。
- ・パターン3はドライバーの働き方・給与制度を変えれば将来的にはあり得る。

○佐藤委員（（一社）全国ハイヤー・タクシー連合会経営委員会委員長）

- ・アプリを利用しない駅待ちや流しの場合も使えるダイナミックプライシングを検討すべき。
- ・制度の自由度を高くすると過当競争につながりやすいので慎重に検討すべき。

○西澤委員（（一社）全国ハイヤー・タクシー連合会経営委員会副委員長）

- ・消費者・タクシー業者にとって同一地域・同一運賃が分かりやすいのでパターン1がよい。

○清水委員（島根大学材料エネルギー学部教授）

- ・最新のドライバー不足の実態と要因の分析が重要。
- ・これまで供給側を制約することで需給調整していた点との整合性が重要。

（以上）

※座長は山内弘隆氏（一橋大学名誉教授）